

登録コード	UAC14500	開講年度	2026				
授業題目	文化情報論研究IV					担当教員	木村 宏人
						副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・1時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	社会学理論を用いたスポーツへの主要なアプローチを学び、現代のスポーツと社会の関係を捉え直すことができる。
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					⇔	理論を応用し、実際に生じているスポーツと関連する社会問題の解決に向けた思考を始めることができる。
(2)授業の概要	スポーツ社会学のやや専門的な英文のテキストを読む。そのことを通して社会的な視点を用いて文化（スポーツ）を捉えるとはいかなることかを理解する。						
(3)授業計画	1. ガイダンス 2. スポーツと社会学 3. Functionalist Theories of Sport 4. Weberian and Microsociological Approaches to Sport 5. Marxist and Neo-Marxist Theories of Sport 6. Cultural Studies Approaches to Sport 7. 'Race' and Ethnicity in Sport 8. Gender and Sexuality in Sport 9. The Body in Sport 10. Sporting Places and Spaces 11. Elias on Sport 12. Bourdieu on Sport 13. Postmodern Sport 14. Globalization and Sport 15. まとめ						
(4)成績評価の方法	授業中の取り組み（50％）、課題（50％）						
(5)成績評価の基準	成績評価の合計が、 (i) 90%以上ならば「卓越している」。 (ii) 80%以上90%未満ならば「かなり上にある」。 (iii) 70%以上80%未満ならば「やや上にある」。 (iv) 60%以上70%未満ならば「水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	事前にテキストの抄訳を作成する。						
(7)履修上の注意	社会学の主要な学説，理論，概念について，学部卒業レベルの内容をすでに習得していることが望ましい。						
(8)質問,相談への対応	授業前後あるいはオフィスアワーにお願いします。可能であれば事前にメールを出してください（メールアドレスは初回授業時に示します）。						
【教科書】	Giulianotti, Richard, 2015, Sport : A Critical Sociology （2nd edition）, Polity Press.						
【参考書】	適宜指示する。						